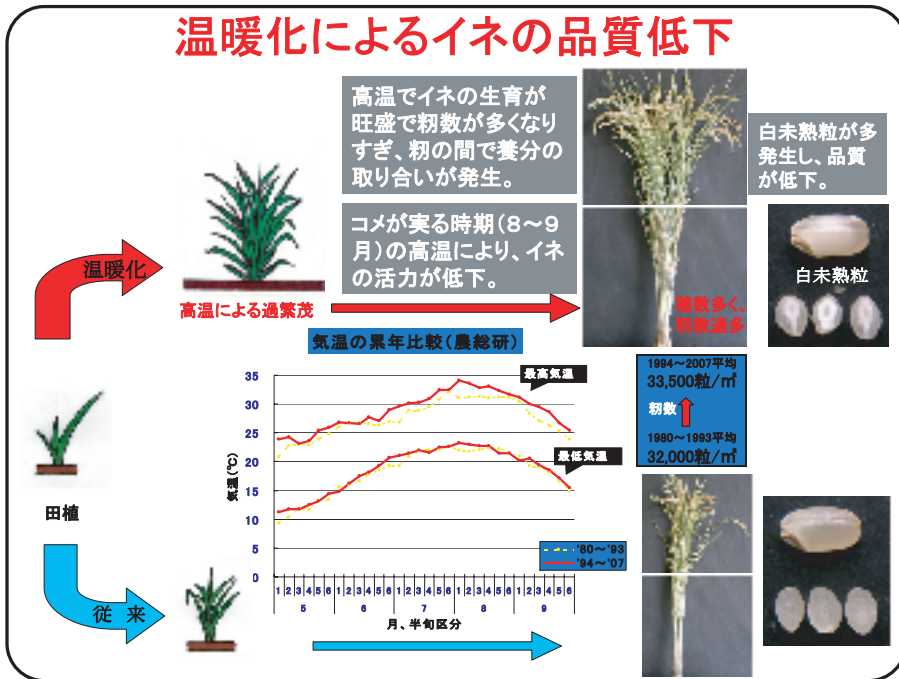


あまむ 地球温暖化

ぜんこくてき しんぱい
全国的に心配され
る米の品質低下！
こめ ひんしつていか
たいさく じっしちゅう
対策を実施中！

温暖化によるイネの品質低下



くわしい説明 ~大人の方向け~

近年、温暖化によるコメの品質低下が各地で問題となっています。穂が出てから収穫までのイネの実る時期(8月~9月)が高温になり過ぎると、コメが白く濁る障害粒(白未熟粒)が多発生し品質が低下します。白未熟粒が混入すると、食味が低下するとも言われています。

京都府においても、平成11年以降、この白未熟粒の発生によりコメの品質が低下傾向にあり、中でも平成13年は作況指数が104と良い作柄でしたが、品質の目安である一等米比率は51%と平年を大きく下回る結果となり、対策が急務となっています。

温度の上昇は稲作期間全般にわたっています。このため、イネの生育は極めて旺盛となり、籾が多く着き過ぎるようになっています。白未熟粒は、このような籾数過多によって各々の籾に同化産物であるデンプンが十分に蓄積しきれないことに加えて、高温のためにイネの同化産物の生産能力が低下するために発生します。

このため、京都府では生育を適度に抑制し籾数を適正なレベルにするための施肥法改善や、イネの実る時期を盛夏期の高温時と重ならないようにするために田植時期を遅らせる、等の対策をとって良質米の生産に努めています。

(京都府農業総合研究所 河瀬弘一氏)